早稲田大学大学院文学研究科紀要 第70輯（2025年3月）
Bulletin of the Graduate School of Letters, Arts and Sciences of Waseda University Vol.70 (Mar.2025)

# ダフニ修道院の「聖母の布」

益　田　朋　幸

アテネ郊外という訪問のしやすさ、モザイクというビザンティン美術らしい技法、作品の質の高さ、ドームを占めるキリスト・パントクラトール像の迫力、等々相俟って、ダフニ修道院主聖堂(カトリコン)(1)のモザイクは、ビザンティン美術史の概説に必ず採り上げられる名作である。にもかかわらず、G・ミレーによって知られるようになり(2)、E・ディーツとO・デムスによってビザンティン美術史に位置づけられて以来(3)、図像学的な研究は驚くほど少ない(4)。個々の場面は、とりたてて他の聖堂装飾・写本挿絵と異なる図像学的要素をもたない、と考えられてきたからであろう。

創建当初の文献資料が一切存在しないため、様式論によって壁画の制作年代を決定しようとする試みは、概説書を含めて少なからず行われてきた。12世紀初頭と11世紀末におおむね考え方は分かれるが、私は11世紀末と考える(5)。

以下に述べるのは、2023年の拙稿「裏切りのパン、哀しみのパン――アシヌウ（キプロス）、パナギア・フォルビオティッサ聖堂聖域の装飾プログラム」(6)と方法論的に対をなす図像学的解

---

（1） 信頼できる著者による事典の記述として、以下を挙げる。D.I. Pallas, s.v. “Daphni,” *RbK*, vol.1, cols. 1020-33; K. Wessel, s.v. “Daphni,” *Lexikon des Mittelalters*, vol.3, 1986, col.569; M. Restle, s.v. “Daphni,” *Lexikon für Theologie und Kirche*, vol.3, 1995, col.24.

（2） G. Millet, *Le monastère de Daphni: histoire, architecture, mosaïques*, Paris 1899.

（3） E. Diez, O. Demus, *Byzantine Mosaics in Greece: Daphni and Hosios Lucas*, Cambridge (MA) 1931.

（4） O. Demus, *Byzantine Mosaic Decoration*, London 1947 (1976) は、モザイク装飾の聖堂の「古典的システム」を論じた名著である。他に以下参照。R. Cormack, “Rediscovering the Christ Pantocrator at Daphni,” *JWCI* 71 (2008), 5-74; L. Brubaker, “The Virgin at Daphni,” in: Th. Arentzen, M. Cunningham (eds.), *The Reception of the Virgin in Byzantium: Marian narratives in texts and images*, Cambridge 2019, 120-149（過去の研究史の概観含む）.

（5） この説の代表的な研究者としては、たとえば以下。D. Mouriki, “Stylistic Trends in Monumental Painting of Greece during the Eleventh and Twelfth Centuries,” *DOP* 34/35 (1980/1981), 77-124, esp.94-99. フロロウは写本挿絵との比較から11世紀初頭を主張するが、今日支持する者はいない。A. Frolow, “La date des mosaïques de Daphni,” *Revue archéologique* 1 (1962), 183-208. 建築史からの議論は以下参照。Ch. Bouras, “The Daphni Monastic Complex Reconsidered,” in: I. Ševčenko, I. Hutter (eds.), *Aetos: studies in honour of Cyril Mango*, Stuttgart 1998, 1-14; G. Pantazis, M. Papathanasiou, “On the Date of the Katholikon of Daphni Monastery. A new approach based on its orientation,” *Mediterranean Archaeology and Archaeometry* 5-1 (2005), 63-76. 私は2024年８月に、テサロニキ大学のA. Semoglou教授とともにダフニを訪れたが、彼は「議論はいまだ開かれていて、12世紀説を排除すべきでない」とのことであった。

釈である。前稿では「受胎告知」の聖母の三方に隣接して、①「使徒の聖体拝領」においてパンを口にしながら立ち去るユダ、②「エジプトの聖マリアの聖体拝領」においてマリアにパンを与える聖ゾシマ、③「聖母神殿奉献」においてマリアにパンを与える天使、の３場面が描かれていることの意味を論じた。私の考える「ビザンティン聖堂装飾プログラム論」(7)の中核は、上下・左右・対面等の関係にある複数の場面が響きあって、メタレヴェルの意味を構成するというものであるが、アシヌウでは「受胎告知」の聖母の周囲に３つの「パン」が組合わされていることになる。ここダフニでは、ドームの下に立って東方向を見るなら、４場面（もしくは５場面）において、聖母マリアとともにタオル状の布が描かれていることに気づく。この布の意味を、ビザンティン美術の遺例から考察するのが本稿の目的である。

## ダフニ修道院の装飾プログラム

個々の場面に図像学上の特異点は見られない、と述べたが、では装飾プログラムには異例な点が見られないだろうか。まず全体の図像配置を概観する。図像配置図【図１】には、聖人のイコン的単独像を省略し、説話場面のみを記載した(8)。主題選択から看取されるのは、キリスト伝と聖母伝の２サイクルがある点である。すなわち、ダフニは聖母マリアに捧げられた修道院であったことがわかる(9)。

ダフニが装飾された時期は、ビザンティン世界における十二大祭（ドデカオルトン）システムの形成期であった(10)。やや後に確立されることになる十二大祭のうち、ダフニは９場面を採用し、神殿奉献・昇天・聖霊降臨を採らなかった。12世紀中葉になるとしばしば聖堂壁面を飾る聖母の嘆き（ピエタ）(11)も、ダフニは描いていない。ネレヅィ（北マケドニア）の聖パンテレイモン修道院(12)（1164年）や、プスコフ（ロシア）のミロジュ修道院(13)（12世紀半ば）では、聖母の嘆きが聖堂壁面の重要な位置を占めるのである。

---

（６）『早稲田大学大学院文学研究科紀要』68 (2023), 449-65.

（７）拙著『ビザンティン聖堂装飾プログラム論』中央公論美術出版、2014年参照。

（８）Wikimedia Commons（https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Floor_plan_of_an_orthodox_temple.svg）の平面図は窓と扉口が表示されていない。実際にはナルテクス西壁中央に入口があり、南北壁中央にも扉口がある。今日訪問の際には南扉口から入るように導かれるが、これはオリジナルのアプローチではない。

（９）時代の遅れる文献に拠れば、「聖母の眠り」に献堂されていた。創建当初からそうであったかは不明である。Brubaker, art.cit. (n.4). 装飾プログラムの観点からは、ダフニが「聖母の眠り」に捧げられていたことは確定できない。ナオス西壁に同図像を描くのは、中期以降すべてのビザンティン聖堂の定型であるからである。

（10）E. Kitzinger, “Reflections on the Feast Cycle in Byzantine Art,” *CahArch* 36 (1988), 51-73.

（11）ビザンティン時代の主題の呼称は epitaphios threnos（墓上の悲嘆、threnos とも略称される）、もしくは entaphiasmos（埋葬）。K. Weitzmann, “The Origin of the Threnos,” rep. in: *Byzantine Book Illumination and Ivories*, London 1980, 476-90.

（12）I. Sinkević, *The Church of St. Panteleimon at Nerezi. Architecture, Programme, Patronage*, Wiesbaden 2000.

（13）V. Sarabianov, *Transfiguration Cathedral of the Mirozh Monastery*, Moscow 2002.

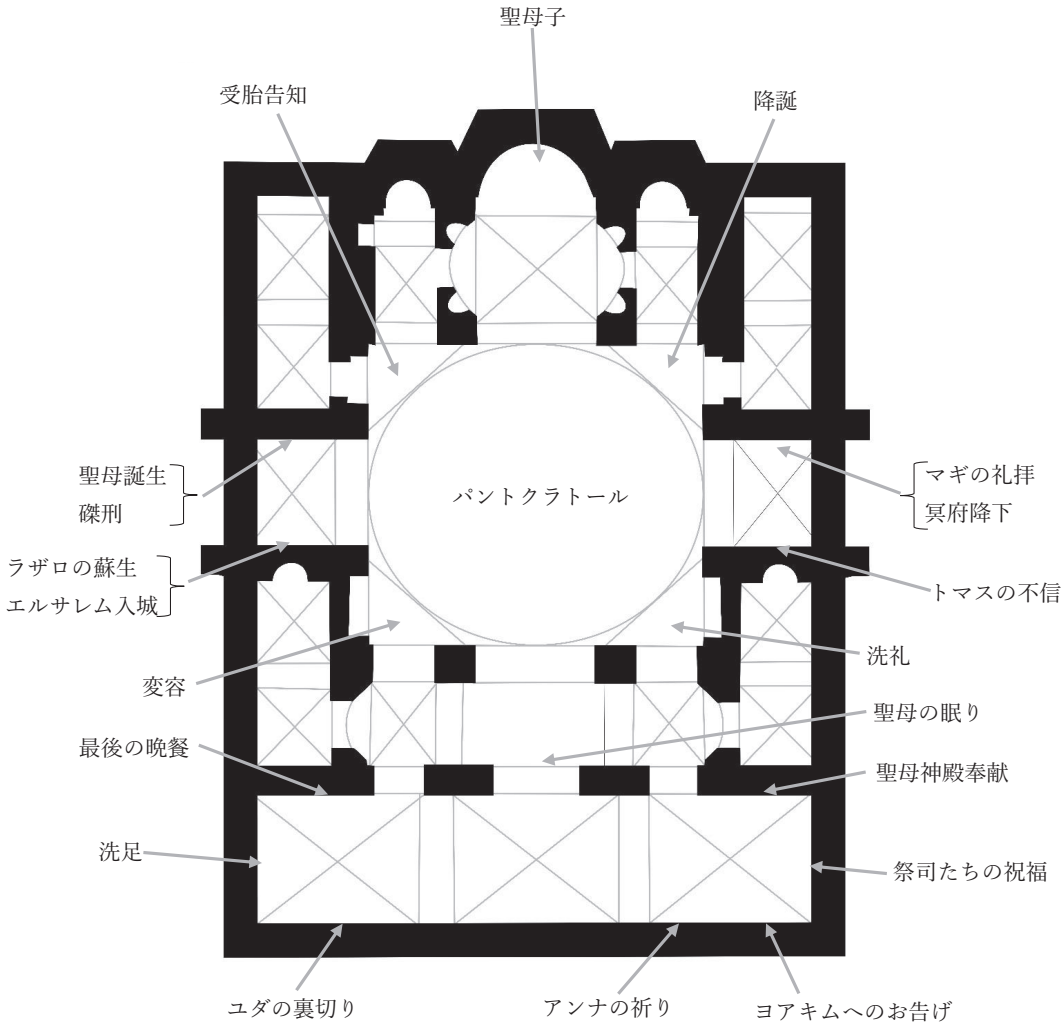


図１　ダフニ修道院図像配置

モザイクで装飾される聖堂は、壁面すべてを壁画が覆う訳ではない。フレスコに比べて場面数が限られ、主題の選択に制作者（パトロン／画家／聖職者）の意図が働く余地の大きいことも考慮しなければならない。ダフニはドーム四隅のスクィンチに受胎告知・降誕・洗礼・変容を選ぶが、オシオス・ルカス修道院は受胎告知（剝落）・降誕・神殿奉献・洗礼を採用している。キオス島ネア・モニ修道院はスクィンチ間に４つのコンクを配することによって、計８場面でキリスト伝を語る：受胎告知・降誕（剝落）・神殿奉献・洗礼・変容・磔刑・十字架降下・冥府降下(14)。11世紀半ばから末にかけて、スクィンチを飾る図像選択には揺れがあり、かつスクィンチを有す

(14)　モザイク３聖堂の図像選択の比較については、Demus, *op.cit.* (n.4) 参照。

る（＝大型の八角ドームをもつ）聖堂建築は後続が少なかったため、定型を確立するには至らなかった。

キリスト伝については、以下のように物語は時間的に進行する。北東スクィンチの受胎告知に始まり、スクィンチでは時計回りに４場面が進むが、重要度の劣るマギの礼拝は降誕と洗礼の中間、南腕東壁に置かれる。変容の後、北腕西壁のラザロ・入城によって受難伝に移行し、ナルテクス北側の３主題（ユダの裏切り・洗足・最後の晩餐[15]）が聖木曜の事件を語る。次いで北腕東壁の磔刑に飛んで、復活の２主題（冥府降下・トマスの不信）は南腕東西壁に配される。おおむねナオスを１周した後、ナルテクス北側に移り、再びナオス北・南腕に戻る、という動きである。物語の順を追ってみようと思えば、最初ナオスを１周した後、ナルテクスに移動して、またナオスに戻らなければならない。ナルテクスの３主題の重要度が劣るとは言えない。最後の晩餐は十二大祭に算入されなかったとはいえ、聖餐の教義との関連でアプシス附近に配されることの多い図像である。図像の取捨選択をすれば、ナオス１周でキリスト伝を一通り語ることは可能だっただろう。

聖母伝については、11世紀半ばのサイクルはキイフの聖ソフィア大聖堂に作例が残る[16]。12世紀になればトリコモ（北キプロス）の聖母（テオトコス）聖堂、アテネ・シオニ聖堂（ジョージア）や前掲ミロジュ修道院、ミヤチノ湖畔アルカジ（ロシア、ノヴゴロド郊外）の受胎告知聖堂（Tserkov' Blagoveshcheniya v Arkazhakh）などに聖母伝サイクルが現れる[17]。ダフニは現存初期の聖母伝の一つで、６場面（５区画）でマリアの生涯を語る。ナルテクス南側が聖母伝区画であるが[18]、アンナの祈り／ヨアキムへのお告げの次は、ナオス北腕東壁の聖母誕生である。再びナルテクスに戻って、祭司たちの祝福（マリア１歳）・聖母神殿奉献（マリア３歳）と続き、ナオス西壁の聖母の眠りでマリアの物語は終わる。

明らかに異例なのは、物語の進行を中絶して、聖母誕生をナオスに移動させた点である[19]。

---

(15)　ビザンティン聖堂装飾では、典礼上の重要性を考慮して「晩餐→洗足」の順になることが多いが、ダフニでは福音書の記述通り（ヨハ13：１－30）「洗足→晩餐」となっている。拙稿 “Giotto's Scrovegni Chapel and its Byzantine Models,”『早稲田大学大学院文学研究科紀要』69 (2024), esp.436-40.

(16)　S.A. Vysotsky, **Светские фрески Софийского собора в Киеве**, Kiev 1989; O.S. Popova, V.D. Sarabianov, **Мозаики и фрески Святой Софии Киевской**, Moscow 2017.

(17)　拙稿「聖母マリア伝図像の東西」『西洋中世研究』10 (2018), 7-26.

(18)　ナルテクスを受難伝と聖母伝に分割するプログラムも類例を見ない。オシオス・ルカス修道院もナルテクスに受難伝を配している。12世紀以降の一般的な傾向としては、ナルテクスに置かれるのはキリスト伝でない、副次的な場面である。ルサノワの学位論文はそのケース・スタディーである。R.B. Roussanova, *Painted Messages of Salvation: Monumental Programs of the Subsidiary Spaces of Late Byzantine Monastic Churches in Macedonia*, diss., University of Maryland 2005.

(19)　この図像配置について、瀧口美香は筆者とは異なる解釈をしている。M. Takiguchi, “The Narrative Cycle of the Life of the Virgin in Byzantine East and Latin West: The Basilica of Santa Maria in Trastevere in Rome and Daphni Monastery near Athens,” *Waseda RILAS Journal* 12 (2025) (in press).

その下区画に描かれた磔刑も、ナルテクスと連続する主題であった。つまりナオス北腕東壁の２主題、聖母誕生と磔刑はともに、近隣の主題とは時間的に連続せずに、ナルテクスから飛び出してきたものである。ギリシア十字式（内接十字式）聖堂では一般に、複雑な壁面構成のゆえに物語の時間順を徹底することは困難であるが、ナルテクスとナオスを往還するのはふつうではない。ここにプログラム上の意図があることが推測されよう。

## 聖母の布

ナオスに戻り、地上を睥睨するパントクラトールの下に立てば、興味深いモティーフに気づくだろう【図２】。ダフニのごとくスクィンチを切ってその上に八角形の巨大なドームを載せる建築形式[20]では、ドームに比してアプシスが小さくなることが多い。小さい窓からの光が限られているので暗いが、（かつては存在した）テンプロンのはるか上のコンクに聖母子坐像を見ることができる。コリント式の柱頭を組合わせたようなデザインの玉座に、聖母子が坐している。二人の顔面部分は剝落してしまったが、青いマフォリオンのマリアの膝に、金色の衣をまとった幼子が坐す。マリアの右手の挙措は不明だが、イエスの右肩に置かれていただろう。母は左手に細長い布を握っている【図３】。布はフェイスタオルを縦に四つ折りにした程度の形状で、両端には房飾り（フリンジ）[21]がつき、赤い二本線の装飾が施される。マリアはそれを二つに曲げてゆるく親指に

図２　ダフニ修道院、ナオス東方向

(20)　クラウトハイマーは cross octagon と呼ぶ。R. Krautheimer, *Early Christian and Byzantine Architecture*, New Haven and London 1986 (4th ed.), 390. 壁画装飾を残すこの形式として、オシオス・ルカス修道院の他、アギア・ソフィア聖堂（モネンヴァシア）やアギイ・テオドリ聖堂（ミストラ）を挙げる。

図３　ダフニ修道院、アプシスの聖母子

図４　ダフニ修道院、受胎告知の聖母

かけ、掌に回す。

視線をやや左に動かす先にあるのが、北東スクィンチの受胎告知である。デムスの言う「空間イコン」の概念[22]がもっともよく当てはまる場面であろう。金地背景の中、大天使ガブリエルは右手を挙げて「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる」（ルカ１：28）と告げる。マリアが胸に当てる右手の指先には緊張が感じられ、人差し指と他の３本指の間が開いている描写が見られる。これが「どうして、そんなことがありえましょうか。私は男の人を知りませんのに」（同１：34）に対応するのか、「私は主の仕え女です。お言葉どおり、この身になりますように」（同１：38）の表象であるのかはわからない。ビザンティン美術が聖母の微妙な心理を描き出した好例であろう。そのマリアの腰帯[23]に、先ほどの布と同じものが二つ折りのままぶら下がっている【図４】。左手は糸を巻いた錘とかぎ針様のものを握っている。マリアがエルサレム神殿の垂幕（カーテン）を織るよう依頼されたのは、紫 porphyra と赤 kokkinon の二色（ふたいろ）であった（ヤコブ原福音書10）が、錘に巻かれた糸は白に近い薄桃色である。ダフニのモザイクには19世紀の修復が加えられているが、もしもこの糸の色が当初のものであるなら、後述する点から興味深い。

さらに左に眼を転ずれば、ビザンティン屈指の名作、磔刑がある。12世紀後半になると、磔刑

(21)　「飾り」というよりは、布を織る際の経糸であろう。

(22)　Demus, *op.cit.*, 13-14.

(23)　ブラケルネ聖堂のマフォリオン（祭日７月２日）とカルコプラティア聖堂の腰帯（祭日８月31日）が、コンスタンティノープルの擁する聖母の二大聖遺物であった。

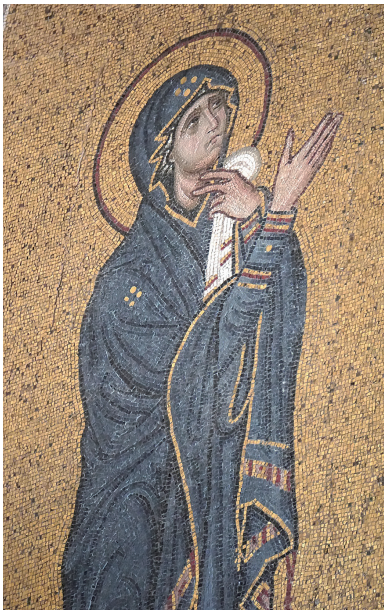

図５　ダフニ修道院、磔刑の聖母

図６　ダフニ修道院、聖母誕生

のキリストの身体はＳ字状に湾曲し、苦痛を強調するようになる[24]が、ダフニのキリストは傾けた頭部以外、ほぼ十字状の静かな形態を有している。足から血が、アダムの頭蓋骨に降り注ぐ様がはっきりと描かれ、十字架が生命の樹であることを示す植物が両側に繁茂する。ヨハネの、悲しみに耐える非対称の顔貌も見事であるが、何より聖母の眉根を寄せ、唇を噛みしめる表情が哀切である。ネレヅィのピエタにおける号泣の描写と双璧をなす、中期ビザンティン美術の感情表現である【図５】。彼女が左手の薬指と小指で握るのが、赤い二本線の入った細長い布である。すなわちこのモティーフは、マリアの涙を拭う布であった。

受胎告知と磔刑という説話場面に用いられ、アプシスの聖母子というイコン的場面にも現れたこの布は、いつからマリアの生涯に登場することになったのであろうか。磔刑の上に眼をやれば、ダフニの回答がそこにある。聖母誕生である。ベッド上のアンナの周囲に３人の侍女が配され、手前に２人の産婆がマリアに産湯を遣わせているのはキリスト降誕図像を模したものである。このうち右端の侍女が左手に握るのが、フリンジと赤い二本線によって明らかな例の布である【図６】。これが偶然であるとも、単なる装飾に過ぎないとも考えられない。磔刑も聖母誕生も、物語の各サイクルからはずれて、ナルテクスではなくこの位置に配されたものだからである。布の、涙を拭うという機能が唯一示されるのが磔刑であり、この布はすでにマリア誕生の際には準備されていたことになる。

(24)　たとえばパフォス（キプロス）の聖ネオフィトス修道院洞窟聖堂ナオスの、所謂「修道院様式」の画家（1196年）。

アプシスに向かって正面から左（北）方向に４点の布があることを確認した。右（南）方向はどうだろうか。南腕東壁の上、マギの礼拝には布がない。マリアは両手でイエスを押さえており、腰帯も隠れているため、物理的に描く余地がなかったのであろうか。その下の冥府降下には、聖母がいない。南東スクィンチの降誕は、聖母の身体左下部分が剝落している。この部分の腰帯か右手に布があったのではないだろうか（降誕に布が描かれる後出の作例リスト参照）。西壁の聖母の眠りはマリアの頭部以外が剝落しているが、ここに布は描かれていなかっただろう（作例リストにも聖母の眠りはない）。マリアが常に感じ続けた哀しみは、息子＝神たるイエスによって他者に先駆けて天国に導かれることによって報われる。ゆえにここでもうマリアは、哀しむ必要がないのである。

降誕を含めれば５点、数えなければ４点の「聖母の布」が、ダフニのモザイクに描かれている。これらの布は、ドーム下に立って東を向けば、一望することができる【図２】。ここで説教をする聖職者は、マリアの生涯が常にこの布とともにあったことに、注意を促しただろう。布は我が子の死に際して涙を拭うためのものであった、すなわち聖母の哀しみを象徴する持物（アトリビュート）であった、というのが本稿の述べる仮説である。

## 聖母の生涯を貫く哀しみ

マリアの生涯は、我が子の死の予感とともにあった。福音書が語る限り、初めて受難が予告されたのは、神殿奉献の際である。祭司シメオンはマリアに対して「剣があなたの魂[25]さえも刺し貫くでしょう。多くの人の心の思いが現れるためです」（ルカ２：35）と告げて、母が我が子の死を眼前に見るであろうことを予告する。これはイエスの生後40日目（２月２日）の出来事であった。12世紀以降のビザンティン聖母子イコンの多くは、マリアの表情に哀しみ・愁い・憂鬱・不安といった感情を描き出す。「受難の聖母」[26]という主題群である。10世紀以降の教父たちは、マリアが幼いイエスに頬ずりする様と、聖母の嘆きにおいてマリアが息子の遺体に頬ずりする様を重ねるレトリックを駆使したのであった[27]。

マリアは我が子の幼いときから、その将来の死を知らされていた。ここまでは福音書に基づく共通理解である。しかしビザンティン人の想像力は、残酷にも「その前」を思い描く。マリアは３歳のときに両親によってエルサレム神殿に捧げられ（聖母神殿奉献）、天使に食べ物を与えら

---

(25)　口語訳では「胸」、新共同訳では「心」であったが、聖書協会共同訳で「魂」とされた。原文は psyche である。続く文の「心」は kardia。

(26)　概括的ではあるが、この図像の発展に関して以下参照。M.J. Milliner, *The Virgin of the Passion: Development, dissemination, and afterlife of a Byzantine icon type*, diss., Princeton University 2011. 天使が受難具を手にしていれば、受難の含意は明らかであるが、アトリビュートなしでもイコン画家たちは、マリアの表情に愁いを含ませた。

(27)　H. Maguire, *Art and Eloquence in Byzantium*, Princeton 1981, chap.V. Lament.

図７　カストリア、聖アナルギリ聖堂、聖アンナとマリア

れて育った（ヤコブ原福音書８：１）。ダフニを含めて、聖母神殿奉献には「天使に食べ物を与えられるマリア」が異時同図的に描かれるのが通例であるが、イェラーキ（ギリシア）の数作例においてはパンのみならず葡萄酒の壺も描かれ、天使のもたらす食物が聖餐の予告であることが示される[28]。つまり天使は３歳の少女に対して、将来、ほぼ半世紀後のイエスの死を告げるのである。

ダフニの聖母誕生はさらにその先をゆく。生まれたばかりの嬰児マリアに対して、召使が涙を拭うべき布をもたらす。この解釈を傍証するのが、中期以降の聖アンナ母子像の描写である[29]。アンナが幼いマリアを抱くイコン的図像は、元来不妊の女が神の恩寵で身籠ったことを強調すべく、アンナの年齢を誇張する表現が主流であった[30]。しかし12世紀後半以降、アンナに「受難の聖母」同様の感情表現が見出せるようになる。たとえばカストリア（ギリシア）、聖アナルギリ聖堂[31]【図７】では、アンナは眉間に黒い逆三角形の影を落とし、眉は八の字に寄せられ、目の下には涙堂のふくらみを強調する隈が強く入れられる。唇を強く結び、震えを抑えるかのようでもある。幼いマリアもまた不安げに母を見つめ、左手を母に差し伸べる。幼児が鑑賞者の方を向かずに母を見つめて手を伸ばす表現は、ラグデラ（キプロス）の「受難の聖母」（1192年）にも見られるもので、本来の礼拝像としての所作をとらず、母子間の感情の交流が主眼となる。なぜアンナが哀しまねばならないか、理由はただ一つ、我が娘が遠い将来味わうべき哀しみに思いを馳せるからであろう。マリア誕生の際に、すでに涙を拭う布が準備されていたのであれば、母アンナが娘を抱いて悲痛な表情をしてもおかしくない。

## 「聖母の布」の作例

現存するビザンティン美術の作例において、「聖母の布」が描かれるものを試みにリスト化す

(28)　前掲『ビザンティン聖堂装飾プログラム論』第18章参照。

(29)　この図像に関しては以下参照。菅原裕文「優しさの形：エレウサ型アンナ像の出現とその意義」『地中海学研究』35 (2012), 55-74. ただし著者はアンナに哀しみを見ない。

(30)　たとえばクルビノヴォ（北マケドニア）の聖ゲオルギオス聖堂（1191年）は、アンナを痩せた老婆として誇張気味に描く。

(31)　S. Pelekanidis, M. Chatzidakis, *Kastoria*, Athens 1984, 22-49.

る【稿末の「作例リスト」】。私の手元にある写真と書物で気づいたもののみを並べても、多数を挙げることができる。もとより網羅的なカタログではないが、この問題を論じる際の手掛かりにはなるだろう。ダフニ以後の後期作例は参考程度に挙げるに留めた。典拠に関しては、すべてに註を付すと紙幅を超えるので、工芸品等必要最低限とし、聖堂装飾に対しては基本的に省略した。

作例1～88（以下ゴシック数字はリストの作例番号に対応）はイコン的図像、89～121が説話図像である。ただし80～86の嘆願（パラクリシス）の聖母、87～88のデイシスは、終末論的含意をもつので、説話的な性格が強い。イコンとナラティヴの往還はビザンティン美術の特質である(32)。おおむね聖母の布は、説話的なコンテクストなく用いられる場合が多い。圧倒的多数は、聖堂アプシスに描かれることの多いオランスの聖母が、腰帯（ガードル）に布を掛け垂らす作例である（1～36）。この図像の聖母の胸に、メダイヨンのキリスト・インマヌエルを配すれば、所謂ブラケルニティッサ型聖母（子）となる（37～42）(33)。ブラケルニティッサ型聖母の「布」は中期以降に現れるが、オランスの聖母においてはイコノクラスム以前から行われていた。ただしメトロポリタン美術館蔵の象牙ピクシス（6世紀）(34)では、オランスの挙措をとる携香女たちが、腰に同様の布を下げているし、サン・ヴィターレ聖堂（ラヴェンナ）の有名な《皇妃テオドラと侍女たち》（6世紀）でも侍女たちが、フリンジのある布を腰に垂らしたり手に持ったりしている。古代末期の女性の服制において一般的な現象であったものと思われる。当初マリアは、マフォリオンをまとう女性のマナーとして、腰から布を下げていたようだ。

この「聖母の布」モティーフにとって決定的な波及力をもったのは、正教の総本山、コンスタンティノープルのアギア・ソフィア大聖堂アプシスに9世紀に施工されたモザイクであった（46）【図8】。細面のマリアは右手を幼子の肩に置き、左手に布を持つ。二つ折りの折り返しを親指に掛け、軽く握りこむように掌で布を押さえている。この仕種は同聖堂南西扉口上の聖母子像（1000年頃、49）、階上廊聖母子（12世紀、66）にも反復され、各地に広く影響を及ぼした。この3作例のうち、布に赤線の柄があるのは南西扉口上の作のみであるが、これが床に立つ一般民衆の肉眼にもっともよく見えたものである。ゲラティ修道院（ジョージア）のアプシス（52）や南イタリア、カルピニャーノのサンティ・マリーナ・エ・クリスティーナのクリュプタ（50）といった遠隔地でも首都の大聖堂を忠実に写しているし、ダフニのアプシス（51）も上半身が欠けているものの、首都作例を模していると考えられる。親指に折り目を引掛ける形で布を持つ作例は、多かれ少なかれ首都の大聖堂の系譜に属している。

説話的な文脈で、マリアが布を持つ起源ははっきりとしない。しかしシナイ山のイコン《磔刑》

---

(32)　前掲『ビザンティン聖堂装飾プログラム論』第3章参照。

(33)　菅原裕文「イコンが名に負うもの：コンスタンティノポリスのマリア聖所と奇跡のイコン」『アジア遊学』115 (2008.10), 94-108. この図像の起源と、ブラケルネ修道院の関係は、ビザンティン美術史上の大問題である。

(34)　https://www.metmuseum.org/art/collection/search/464499 (accessed 14 July, 2024)

図８　イスタンブール、聖ソフィア
大聖堂アプシス、聖母子

図９　シナイ山、聖エカテリニ
修道院イコン、磔刑

(89)【図９】[35]の聖母が、布を手にしているのは重要である。我が子の死を目にして、涙を拭う母のイメージは、イコノクラスム以前に存在した[36]。降誕の聖母が布をもつのは、カッパドキア、トカル・キリセ新聖堂が現存初出であるように思われるが、首都の画家作とされるので、これに遡る作例がコンスタンティノープルに存在したことは確実である。後続する作例（109～115）も少なくないので、中期・後期のビザンティン世界に型として定着した模様である。しかしトカル新聖堂は主アプシスに磔刑を採用しているが、十字架の下のマリアは、マフォリオンで覆った両手を高く掲げるのみで、布を手にしていない。一聖堂内で複数の説話主題において、聖母に布を持たせる例はダフニ以外に現存しない。

昇天の聖母が腰に布を下げる作例（118～119）は、イコノクラスム前後に見られるが、これはオランスの聖母図像の応用であり、哀しみの含意を見る必要はない。十字架降下[37]の聖母が布を手にするのは、磔刑との連続性を考慮したものだろうが、この場合の聖母は息子の遺体を支えるのが主題上の主眼であって、手に布を持たせるにはやや困難である。ミレシェヴァ（117）は

(35)　K. Weitzmann, *The Monastery of Saint Catherine at Mount Sinai. The Icons*, vol.1, Princeton 1976.

(36)　初期の教父説教のうち、磔刑に際してマリアが布で涙を拭う、という具体的な記述は今のところ見出せていない。しかし「嘆いた」「悲しんだ」という抽象的な表現は、ヨアンニス・クリソストモスの「マタイ福音書第88説教」「ヨハネ福音書第85説教」等多く見ることができる。

(37)　長塚安司「十字架降下について II」『美術史』87 (1972), 61-86 参照。

腰に下げることによって解決している。

## 「聖母の布」関連作例

「聖母誕生」に布が登場するのはダフニが現存初出であるが、聖母伝を描いた図像の中で、関連し得る作例を確認しておく。アシヌウ（キプロス）のパナギア・フォルビオティッサ聖堂（1105／06年）の聖母誕生【図10】では、召使二人がアンナに産後の食物を届けるが、その皿の下に線の入った布を添えて持っている。ここでは食べ物を届けることが目的で、布は添え物に過ぎず、哀しみの含意を読みとるべきではないだろう。

ペレンドリ（キプロス）の聖十字架聖堂 Timios Stauros は聖母伝サイクルを含む14世紀のフレスコをもつ(38)。このうちアンナへのお告げ【図11】において、室内にいる侍女が例の布を持っている。マリア誕生以前に「哀しみ」は決定されていたということだろうか。ただし同サイクル中の聖母誕生や受胎告知には布が描かれないので、過剰解釈かも知れない。

オフリド（北マケドニア）のパナギア・ペリブレプトス聖堂（1294／95年）もまた大規模な聖母伝をもつ聖堂で、その聖母誕生【図12】には興味深いモティーフが描かれる。食べ物を運ぶ召使が布を持つのではなく、右端の侍女が長い脚付きの糸紬台で白い糸を紡いでいる(39)。坐像の侍女の糸巻というモティーフは、レティンヴゥ Letymvou（キプロス）のアギイ・ケリコス・ケ・ユリッタ聖堂（15世紀末）(40)でも繰返されるので、ビザンティン世界で一定の型となったものである。ペチ総主教座（コソヴォ）聖母聖堂（14世紀）の聖母誕生でも、侍女が糸巻を手にしている。

図10　アシヌウ、パナギア・フォルビオティッサ聖堂、聖母誕生

聖母誕生の侍女が紡ぐ糸はすべて白であった。この点で重要なのは、受胎告知図像でも、聖母に白い糸巻を与える伝統が存在したことである。

(38)　N. Zarras, *The Church of the Holy Cross at Pelendri*, Lefkosia 2010.

(39)　ラフォンテーヌ＝ドゾーニュは糸巻図像について、古代美術からの影響を指摘する。パレオロゴス朝美術の傾向からしてあり得ないことではないが、なぜここにこのモティーフが配されるのか、説明が必要であろう。J. Lafontaine-Dosogne, *Iconographie de l'enfance de la Vierge dans l'empire byzantine et en occident*, vol.1, Brussels 1992[2], 105-6.

(40)　A. and J.A .Stylianou, *The Painted Church of Cyprus*, London 1985 (1964), 414-18.

図11　ペレンドリ、聖十字架聖堂、アンナへのお告げ

図12　オフリド、パナギア・ペリブレプトス聖堂、聖母誕生（細部）

ネレヴィの聖パンテレイモン（1164年）【図13】、ソポチャニ修道院（1208／09年）、スシチャ Sušica（北マケドニア）の聖母聖堂（14世紀）、オフリドの聖コンスタンティヌスとヘレナ聖堂（1400年）、オフリド近郊レシャニ Lešani の万聖聖堂 Si Sveti（14世紀）、オフリド近郊ヴェルメイ Velmaj の聖母聖堂（15世紀）などで、白い糸巻の受胎告知を見ることができる。もちろんこの際、白く見える糸巻が絵具の剝落もしくは褪色によるものでないかどうか注意しなければならない。先に述べた通り、ダフニの受胎告知でも、マリアは緋色とは言えない薄桃色（もしくは白）の糸巻を手にしている。白い糸巻が有意の図像であるか、つまりマリアは緋色で神殿の垂幕を織るのではなく、白で自らの涙を拭う布を織るのかどうかは、教父文献等の傍証を俟たねばならない。

クレタ島イラクリオ近郊ピルゴス Pyrgos のアギイ・ゲオルギオス・ケ・コンスタンティノス聖堂（1314／15世紀）の聖母の嘆きでは、キリストの遺骸上空に飛翔する二天使が、青い線の入った布を捧げ持つ。通常これらの天使はキリストの遺骸＝神への犠牲を受けとるため、衣で手を隠す描写をとる[41]。天使の役割がここでは、犠牲の受領から、母の慰撫へと変化しているのであろうか。

カッパドキア（トルコ）、ウフララ渓谷のピュレンリセキ・キリセシ Pürenliseki Kilisesi（10世紀）のご訪問では、抱き合うマリアとエリサベトの右、建築物のアーチの中に異なるニンブス

(41)　菅原裕文「聖母子像にともなう天使の役割」『エクフラシス：ヨーロッパ文化研究』1 (2011), 56-69.

図13　ネレヅィ、聖パンテレイモン修道院、受胎告知の聖母

の色の女性が、例の布を手に立っている。ただし同じくカッパドキア、オルタヒサールのジャンバズル・キリセ Canbazlı Kilise（11世紀）の同じ人物は、建物上部から垂れ下がるカーテン状の布を摑んでいる。カッパドキアでは、手本の意味を理解することなく写す場合が少なくない。図像が元来有していたはずの意味が変容する点に留意しなければならない。

ビザンティン世界で広く崇敬された聖ニコラオスの定型図像では、ニコラオスの上部左右に小さく、キリストと聖母の半身像が描かれる。このうちの聖母が細長い布を手にするが、これはコンスタンティヌス大帝の命により投獄されたニコラオスが夢を見て、キリストから福音書、聖母からオモフォリオンを受けとった伝承に因む描写であり、われわれの「哀しみ」とは関係しない。以上思いつくままに、「聖母の布」の諸問題を述べた。ビザンティン図像学において「聖母の布」は、単なる装飾である場合も少なくないが、聖母の哀しみと関わり得るモティーフであることを踏まえて見るなら、新たな展望が拓けてくるかも知れない。

## 結

図像学的研究のほとんどないダフニ修道院において、ドーム下に立って東を眺めると、少なくとも４場面、おそらくは５場面において、布モティーフが聖母と関連づけて描かれている。このうち布が機能をもって用いられている唯一の場面が磔刑であり、そこで聖なる母は哀しみの涙を布で拭っている。本稿とディプティクをなすキプロス島アシヌウの作例を論じた際、受胎告知の聖母に隣接する３場面で、パンが効果的に用いられていることを述べた(42)。ペダンティズムに陥りかねないほど高度に知的な装飾プログラムを駆使するビザンティン美術は、ダフニの４／５場面の「聖母の布」によって、マリアの生涯を貫く哀しみを視覚的に表象する演出をした。

布の反復は偶然とは言えない。なぜなら聖母誕生と磔刑の２場面は、どちらもナルテクスと物語的時間の流れを共有しており、そこから飛び出す形で北腕東壁に配されたのである。この逸脱を説明するのが、「布」仮説である。布は聖母の哀しみの表象であり、それが最終的に成就する

(42)　前註（６）参照。

のが磔刑であった。では初めは？　ダフニの画家は、聖母誕生のときにすでに、布は準備されていた、と残酷にも述べるのである。マリアの哀しみの初めと終わりを併置するために、説話の順を乱しても、二つの場面はこの壁面に隣接して配されなければならなかった。

もちろんこの仮説を立証するためには、４～９世紀の教父たちがマリアの哀しみと布を関連づけている説教を挙げなければならず、それは今後の課題としたい。ここで提示した120余の作例から浮かび上がるのは、この布モティーフは古代末期の女性がマフォリオンをまとう際に、マナーとして腰に下げたものであろうということである。この風習から始まって、布は様々な説話的文脈に用いられるようになった。しかしサイクル中の複数場面に布を描いて、その意味を強調する作例は、ダフニ以外に現存しない。２場面に描く聖堂すらない中で、ダフニは４／５場面に採用するのである。

いつものことながら、ビザンティン美術が本質的に内包するアポリアは、起源問題である。首都コンスタンティノープルから遠く離れたキプロス島、11世紀には僻村に過ぎなかったアテネで、こうした知的なプログラムが構想された、と考えるには無理がある。どちらの場合も首都に手本が存在して、画家は遠隔地でそれを再現したのであろう。しかし肝心の手本は失われ、我々は周縁作例によって首都の絢爛を空想しなければならない。

最後に、ダフニの装飾プログラム全体を考察する際に不可欠の要素を追記しておく。４つのスクィンチの下部にはそれぞれニッチがあって、神学者／預言者の半身像が配されている。受胎告知の下にはモーセの兄たる預言者アロン【図15】、降誕の下には「神学者（テオロゴス）」（ナジアンゾスの）グリゴリオス、洗礼の下には「奇蹟を起こす者（タウマトゥルゴス）」グリゴリオス、変容の下には預言者ゼカリヤ、である。４人物が選ばれ、それぞれ説話場面の下に描かれるには理由があっただろうが、私たちはそれを知らない。

図14　ダフニ修道院、預言者アロン

二人のグリゴリオスについては、説話場面に関する説教が存在する（した）ことが考えられる。多作家であったナジアンゾスのグリゴリオスは、降誕に関する説教を少なからず残している。しかし降誕に言及する教父は無数におり、その中からナジアンゾスが選ばれた理由はわからず、タウマトゥルゴスと併せて「グリゴリオス」に関する強調を意図したものかも知れない。

受胎告知の下の祭司アロンについては、説明が可能である。神がイスラエル十二部族それぞれから杖を提出させた際、アロンの杖のみが芽吹き、花を咲かせた（民17：16－23）。この故事が予型となり、マリアの結

婚相手がヨセフと決定された。受胎告知の下にアロンがいるのは相応しく、かつマリアに懐胎を告げる大天使ガブリエルも杖を手にしている。４／５場面に共通して布があったように、マリアとアロンには「神に選ばれた者」という共通性があり、「杖」のイメージによっても二人は連結されるのである。

北西のゼカリヤは、エルサレム入城を予型した旧約預言者として知られる。入城を記述したマタイ21：５、ヨハネ12：15がゼカリヤ書９：９の引用だからである。しかしダフニの入城はゼカリヤとは反対の南腕西壁に配されており、関連づけられているとは言えない。一方でビザンティン図像学において、旧約の預言者ゼカリヤ（希語ザカリア）を、洗礼者ヨハネの父であり、聖母マリアの養育者たる祭司ザカリアと意図的に重ね合わせる伝統がある(43)。ナオスの北側に聖母誕生と磔刑を並べることによってマリアの哀しみを強調するのが、本聖堂装飾プログラムの構想であるなら、北東スクィンチ下のアロンと北西スクィンチ下のザカリアを、ともに聖母と関わりのある人物として配した可能性を考えてよいかも知れない。

ダフニ修道院モザイクのプログラムの全貌は、こうしたイコン的人物像の解釈を含めなければ、十全なものとは言えない。本稿で提示した仮説は、その小さくはない一歩としたい。

【後記】　本論文はJSPS科研費22H00621の助成を受けたものである。

【図版出典】

図９：K. Weitzmann, *The Monastery of Saint Catherine at Mount Sinai. The Icons*, vol.1, Princeton 1976, pl.xxv.

図12：菅原裕文氏（金沢大学）

他は筆者撮影・作成

作例リスト

| | Iconography | Cloth | Date | City | Country | Church | Place | Genre |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Virgin in Orans*1 | girdle | 6 C | Bawit | Egypt | Mon. St. Apollon | | fresco |
| 2 | Virgin in Orans*2 | girdle | 7 C | Leivadia | Cyprus | Panagia tes Kyras (destroyed) | apse | mosaic |
| 3 | Virgin in Orans*3 | girdle | 9 C | London | England | V&A Mus. | | enamel |
| 4 | Virgin in Orans*4 | girdle | 9 C | Princeton Univ. | USA | Ms. Garrett 6, f.11r | | miniature |
| 5 | Virgin in Orans*5 | girdle | 9/10 C | Venice | Italy | S. Marco Treasury | | enamel |
| 6 | Virgin in Orans*6 | girdle | 9/10 C | Venice | Italy | Bib.Marc., Book Cover | | enamel |
| 7 | Virgin in Orans | girdle | 10 C | Istanbul | Turkey | Arch.Mus. | | marble |
| 8 | Virgin in Orans*7 | girdle | 10/11 C | Venice | Italy | Bib.Marc., Book Cover | | enamel |

(43)　拙稿「聖母よ、御腕を支えん――オフリド、パナギア・ペリブレプトス聖堂アプシスの旧約人物像について」*Waseda Rilas Journal* 1 (2013), 4, 17-27.

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | Virgin in Orans | girdle | 10/11 C | Belisırma, Cappadocia | Turkey | Direkli Kilise | apse | fresco |
| 10 | Virgin in Orans*8 | girdle | 10/11 C | Richmond | USA | Virginia Mus. of Fine Arts | | enamel |
| 11 | Virgin in Orans (upper half)*9 | girdle | 1065-67 | Nicaea | Turkey | Dormition Church | | mosaic |
| 12 | Virgin in Orans | girdle | 11 C | Kiev | Ukraina | St. Sophia | apse | mosaic |
| 13 | Virgin in Orans*10 | girdle | 11 C | Kiev | Ukraina | St. Sophia | | fresco |
| 14 | Virgin in Orans | girdle | 11 C | Chios | Greece | Nea Moni | apse | mosaic |
| 15 | Virgin in Orans*11 | girdle | 11 C | London | England | British Mus. | | enamel |
| 16 | Virgin in Orans*12 | girdle | 11 C | Athens | Greece | Benaki Mus., Inv.11442 | | bronze |
| 17 | Virgin in Orans*13 | girdle | 11/12 C | Thessaloniki | Greece | Mus. of Byz. Culture | | marble |
| 18 | Virgin in Orans*14 | girdle | 11/12 C | Athens | Greece | Byz.Mus. | | icon |
| 19 | Virgin in Orans*15 | girdle | 1112 | Ravenna | Italy | Episcopal Chapel | | mosaic |
| 20 | Virgin in Orans | girdle | 12 C | Palermo | Italy | Cefalù, Cathedral | apse | mosaic |
| 21 | Virgin in Orans | girdle | 12 C | Kastoria | Greece | St. Nikolaos tou Kasnitzi | apse | fresco |
| 22 | Virgin in Orans*16 | girdle | 12 C | Berlin | Germany | Mus. | | marble |
| 23 | Virgin in Orans*17 | girdle | 12 C | Messina | Italy | Mus.Arch.Regionale | | marble |
| 24 | Virgin in Orans | girdle | 13 C | Venice | Italy | S. Marco | Immanuel dome | mosaic |
| 25 | Virgin in Orans*18 | girdle | 13 C | Venice | Italy | S. Marco | | mosaic |
| 26 | Virgin in Orans | girdle | 13 C | Manastir | N. Macedonia | St. Nikolaos | apse | fresco |
| 27 | Virgin in Orans | girdle | 13 C | Prilep | N. Macedonia | St. Niketas | apse | fresco |
| 28 | Virgin in Orans (Akathistos oikos 21) | girdle | 1295-1304 | Elassona | Greece | Panagia Olympiotissa | | fresco |
| 29 | Virgin in Orans*19 | girdle? | 13/14 C | Venice | Italy | Bib.Marc., Book Cover | | enamel |
| 30 | Virgin in Orans | girdle | 14 C | Mystra | Greece | St. Demetrios | dome | fresco |
| 31 | Virgin in Orans | girdle | 14 C | Sušica | N. Macedonia | Markov Manastir | apse | fresco |
| 32 | Virgin in Orans | girdle | 14 C | Dečani | Kosovo | Mon. | apse | fresco |
| 33 | Virgin in Orans | girdle | 14 C | Gračanica | Kosovo | Mon. | apse | fresco |
| 34 | Virgn in Orans*20 | girdle | 14 C | Kastoria | Greece | St. Nikolaos tou Kiritzi | apse | fresco |
| 35 | Virgin in Orans*21 | girdle | 14 C | Lesnovo | N. Macedonia | Lesnovo Mon. | | fresco |
| 36 | Virgin in Orans | girdle | 14 C | Mystra | Greece | Panagia Peribleptos | dome | fresco |
| 37 | Virgin in Orans & Child*22 | girdle | 1198 | Nereditsa, Novgorod | Russia | Savior Chirch | apse | fresco |
| 38 | Virgin in Orans & Child | girdle | 13 C | Studenica | Serbia | Katholikon | apse | fresco |
| 39 | Virgin in Orans & Child | girdle | 14 C | Psaca | N. Macedonia | St. Nikolaos | apse | fresco |
| 40 | Virgin in Orans & Child | girdle | 14 C | Peć, Patriarchate | Kosovo | St. Demetrios | apse | fresco |
| 41 | Virgin in Orans & Child | girdle | 14 C | Peć, Patriarchate | Kosovo | Narthex | | fresco |
| 42 | Virgin in Orans & Child | girdle | 16 C | Peć, Patriarchate | Kosovo | St. Nikolaos | apse | fresco |
| 43 | Virgin & Child (enth) | girdle | 6 C | Thessaloniki | Greece | St. Demetrios | N aisle | mosaic |
| 44 | Virgin & Child (enth) | left hand | 6/7 C | Rome | Italy | Catacomb of Comodilla | | fresco |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 45 | Virgin & Child (enth) | left hand | 817-24 | Rome | Italy | S. Maria in Cosmedin | apse | mosaic |
| 46 | Virgin & Child (enth) | left hand | 9 C | Istanbul | Turkey | St. Sophia | apse | mosaic |
| 47 | Virgin & Child (enth)*23 | left hand | 10/11 C | Casaranello | Italy | S. Maria della Croce | | fresco |
| 48 | Virgin & Child (enth)*24 | right hand | 10/11 C | Cleveland | USA | Cleveland Mus. of Art | | ivory |
| 49 | Virgin & Child (enth) | left hand | 11 C | Istanbul | Turkey | St. Sophia | SW entrance | mosaic |
| 50 | Virgin & Child (enth)*25 | left hand | 11 C | Carpignano Salentino | Italy | SS. Marina e Cristina | | fresco |
| 51 | Virgin & Child (enth) | left hand | 11 C | Athens | Greece | Daphni Mon. | apse | mosaic |
| 52 | Virgin & Child (enth) | right hand | 12 C | Gelati | Georgia | Gelati Mon. | apse | mosaic |
| 53 | Virgin & Child (enth) | left hand | 12 C | Palermo | Italy | Monreale | apse | mosaic |
| 54 | Virgin & Child (enth) | right hand | 12 C | Thessaloniki | Greece | St. Sophia | apse | mosaic |
| 55 | Virgin & Child (enth) | left hand | 1192 | Lagoudera | Cyprus | Panagia tou Arakos | apse | fresco |
| 56 | Virgin & Child (enth) | right hand | 13 C | Trabzon | Turkey | St. Sophia | apse | fresco |
| 57 | Virgin & Child (enth)*26 | left hand | 13 C | Sinai | Egypt | Mon. St. Catherine | | icon |
| 58 | Virgin & Child (enth) | right hand | 14 C | Studenica | Serbia | King's Church | apse | fresco |
| 59 | Virgin & Child (enth) | right hand | 16 C | Slivnica | N. Macedonia | Theotokos | entrance | fresco |
| 60 | Virgin & Child (stand) | girdle | 6 C | Kiti | Cyprus | Panagia Angeliktisti | apse | mosaic |
| 61 | Virgin & Child (stand) | left hand | 8 C | Rome | Italy | S. Maria Antiqua | N chapel | fresco |
| 62 | Virgin & Child (stand)*27 | left hand | after 787 | Nicaea | Turkey | Dormition Church | apse | mosaic |
| 63 | Virgin & Child (stand)*28 | left hand | 10 C | Nicaea | Turkey | Dormition Church | | mosaic |
| 64 | Virgin & Child (stand)*29 | girdle | 10 C | Istanbul | Turkey | Arch.Mus. | | marble |
| 65 | Virgin & Child (stand)*30 | left hand | 10 C | Tbilisi | Georgia | Martvili (State Mus.) | | repousse |
| 66 | Virgin & Child (stand) | left hand | 12 C | Istanbul | Turkey | St. Sophia | gallery | mosaic |
| 67 | Virgin & Child (stand) | left hand | 12 C | Didi Ateni | Georgia | Ateni Sioni | apse | fresco |
| 68 | Virgin & Child (stand) | left hand | 12 C | Torcello, Venice | Italy | S. Maria Assunta | apse | fresco |
| 69 | Virgin & Child (stand)*31 | girdle | 12 C | Athens | Greece | Byz.Mus. BM1059, T147 | | marble |
| 70 | Virgin & Child (stand) | right hand | 13 C | Studenica | Serbia | Katholikon | S wall | fresco |
| 71 | Virgin & Child (stand) | girdle | 1285 | Trikala | Greece | Porta Panagia | | mosaic |
| 72 | Virgin & Child (stand) | left hand | 14 C | Mystra | Greece | St. Demetrios | apse | fresco |
| 73 | Virgin & Child (upper half)*32 | left hand | 7 C | Rome | Italy | Pantheon | | icon |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 74 | Virgin & Child (Hodegetria) | left hand | 6 C | Rome | Italy | S. Maria Maggiore, Salus Populi Romani | | icon |
| 75 | Virgin & Child (Hodegetria)*33 | left hand | 10/11 C | Castagnola | Italy | Villa Favorita | | ivory |
| 76 | Virgin & Child (Hodegetria)*34 | left hand | 10/11 C | Bamberg | Germany | Historisches Mus. | | ivory |
| 77 | Virgin & Child (Hodegetria)*35 | left hand | 10/11 C | Leipzig | Germany | Univ. Lib., cod.Rep. I.57 | | ivory |
| 78 | Virgin & Child (Hodegetria)*36 | left hand | 10/11 C | Aachen | Germany | Domschaz | | ivory |
| 79 | Virgin & Child (Dexiokratousa)*37 | right hand | 13 C | Sinai | Egypt | Mon. St. Catherine | | icon |
| 80 | Virgin Paraklesis*38 | girdle | 7 C | Thessaloniki | Greece | St. Demetrios | N aisle | mosaic |
| 81 | Virgin Paraklesis | girdle | 9 C | Thessaloniki | Greece | St. Demetrios | | mosaic |
| 82 | Virgin Paraklesis*39 | girdle | 10 C | Vatican | Italy | BAV Vat.Reg.gr.1, f.2 | | miniature |
| 83 | Virgin Paraklesis | left hand | 12 C | Kastoria | Greece | Sts. Anargyroi | | fresco |
| 84 | Virgin Paraklesis | left hand | 12 C | Kaliana | Cyprus | Sts. Ioakeim & Anna | | fresco |
| 85 | Virgin Paraklesis | right hand | 1191 | Kurbinovo | N. Macedonia | St. George | | fresco |
| 86 | Virgin Paraklesis | right hand | 14 C | Prizren | Kosovo | St. Savior | | fresco |
| 87 | Deesis*40 | girdle | 8/9 C | Tbilisi | Georgia | Mus. (Martvili) | | enamel |
| 88 | Deesis*41 | girdle | 945-59 | Limburg | Germany | Staurotheke | | enamel |
| 89 | Crucifixion | left hand | 8 C | Sinai | Egypt | Mon. St. Catherine | | icon |
| 90 | Crucifixion | right hand | 9 C | Kızılçukur, Cappadocia | Turkey | St. Niketas | | fresco |
| 91 | Crucifixion*42 | left hand | 9 C | New York | USA | Metropolitan Mus. | | enamel |
| 92 | Crucifixion | left hand | 10 C | Göreme, Cappadocia | Turkey | No.1 El Nazar | | fresco |
| 93 | Crucifixion | left hand | 10 C | Göreme, Cappadocia | Turkey | No.29 Kılıçlar Kilise | | fresco |
| 94 | Crucifixion | left hand | 11 C | Athens | Greece | Daphni Mon. | | mosaic |
| 95 | Crucifixion*43 | left hand | 11 C | Mount Athos | Greece | Iviron Mon. Cod.56, f.11v | | miniature |
| 96 | Crucifixion*44 | left hand | 11/12 C | Munich | Germany | Wittelsbacher Ausgleichsfonds | | enamel |
| 97 | Crucifixion | left hand | 12 C | Psokov | Russia | Mirozh Mon. | | fresco |
| 98 | Crucifixion*45 | left hand | 12 C | Eddeh, Batroun | Lebanon | St. Sabas | | fresco |
| 99 | Crucifixion*46 | right hand | 1198 | Nereditsa, Novgorod | Russia | Savior Chirch | | fresco |
| 100 | Crucifixion*47 | left hand | 12/13 C | Madrid | Spain | Biblioteca Nacional de España, Ms. 52, f.80v | | miniature |
| 101 | Crucifixion | left hand | 13 C | Aquileia | Italy | Cathedral | crypt | fresco |
| 102 | Crucifixion | right hand | 13 C | Bojana | Bulgaria | Sts. Nikolaos & Panteleemon | | fresco |
| 103 | Crucifixion | left hand | 15/16 C | Athens | Greece | Byzantine Mus. | | icon |
| 104 | Crucifixion | left hand | 16 C | Ohrid | N. Macedonia | St. Demetrios | | fresco |
| 105 | Annunciation | girdle | 11 C | Athens | Greece | Daphni Mon. | | mosaic |
| 106 | Annunciation | girdle | 13 C | Mileševa | Serbia | Mon. Mileševa | | fresco |
| 107 | Annunciation | girdle | 14 C | Mystra | Greece | Panagia Peribleptos | | fresco |
| 108 | Nativity | right hand | 10 C | Göreme, Cappadocia | Turkey | No.9 Tokalı New | | fresco |
| 109 | Nativity | right hand | 12 C | Thessaloniki | Greece | Hosios David | | fresco |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 110 | Nativity | right hand | 1270 | Sangri, Naxos | Greece | St. Nikolaos | | fresco |
| 111 | Nativity | right hand | 1280 | Moutoullas | Cyprus | Panagia tou Moutoulla | | fresco |
| 112 | Nativity | left hand | 14 C | Asinou | Cyprus | Panagia Phorbiotissa | | fresco |
| 113 | Nativity | left hand | 14 C | Qashreti, Svaneti | Georgia | St. George | | fresco |
| 114 | Nativity | right hand | 14 C | Kalogeros, Rethymno, Crete | Greece | St. Marina | | fresco |
| 115 | Nativity*48 | right hand | 14 C | Mt. Athos | Greece | Mon. Megiste Laura | | miniature |
| 116 | Descent from the Cross | right hand | 1164 | Nerezi | N. Macedonia | St. Panteleimon | | fresco |
| 117 | Descent from the Cross | girdle | 13 C | Mileševa | Serbia | Mon. Mileševa | | fresco |
| 118 | Ascension | girdle | 586 | Florence | Italy | Rabbula Gospels, f.13v | | miniature |
| 119 | Ascension | girdle | 9 C | Thessaloniki | Greece | St. Sophia | dome | mosaic |
| 120 | Birth of the Virgin | maid's left hand | 11 C | Athens | Greece | Daphni Mon. | | mosaic |
| 121 | Emperor's Coronation | left hand | 9/10 C | Berlin | Germany | Bode Mus. | | ivory |

作例リストへの註

1. Chapel 17, lost. K. Kalokyris, *Θεότοκος εις την εικονογραφίαν ανατολής και δύσεως*, Thessaloniki 1972, pl.10.
2. S. Sophocleous, *Icons of Cyprus. 7th-20th Century*, Nicosia 1994.
3. Beresford Hope Cross. D. Buckton (ed.), *Byzantium. Treasures of Byzantine Art and Culture*, British Museum 1994, no.141; M. Vassilaki (ed.), *Mother of God. Representations of the Virgin in Byzantine Art*, Benaki Mus. 2000, fig.173.
4. Four Gospels. H.C. Evans (ed.), *The Glory of Byzantium: Art and Culture of the Middle Byzantine Era A.D. 843-1261, exh.cat.*, New York 1997, no.43.
5. Book Cover. Vassilaki (n.3), fig.114; K. Wessel, *Die byzantinische Emailkunst vom 5. bis 13. Jahrhundert*, Recklinghausen 1967, no.13.
6. Venice, Biblioteca Marciana, ms.Lat.I.101 (=2260). S. Gentile (ed.), *Oriente Cristiano e Santità*, exh.cat. Biblioteca Nazionale Marciana 1998, no.58, fig. on p.272; Wessel (n.5), no.13.
7. Venice, Biblioteca Marciana, ms.Lat.I.100 (=2089). Gentile (n.6), no.59, fig. on p.274; Evans (n.4), no.41; Wessel (n.5), no.27.
8. Enkolpion. Vassilaki (n.3), fig.175.
9. V. Lazarev, **История Византийской Живописи**, Moscow 1986, fig.266.
10. South altar pillar. O.S. Popova, V.D. Sarabianov, **Мозаики и фрески Святой Софии Киевской**, Moscow 2017, fig.305; A.I. Komeć (ed.), **История Русского искусства**, vol.1, Moscow 2007, fig.280.
11. Enkolpion. Evans (n.4), no.121; Buckton (n.3), no.165.
12. Blachernitissa 銘。Bronze Processional Cross. Vassilaki (n.3), no.41; *Splendeur de Byzance*, Musées royaux d'art et d'histoire Bruxelles 1082, Br.16.
13. Marble Relief. Vassilaki (n.3), fig.188.
14. A. Donati, G. Gentili (eds.), *Deomene: l'immagine dell'orante fra Oriente e Occidente*, exh.cat., Museo nazionale di Ravenna, Milan 2001, no.92, pp.149, 223.

15. Kalokyris, (n.1), pl.2.
16. Staatliche Museen zu Berlin, Museum für Spätantike und Byzantinische Kunst. Evans (n.4), no.12.
17. Donati, Gentili (n.14), 42.
18. Virgin of ‹double begging› in S. Marco. Kalokyris, (n.1), pl.17-2.
19. Venice, Biblioteca Marciana, ms.Lat.III.111 (=2116). Gentile (n.6), no.61, fig. on 280; Wessel (n.5), no.58.
20. E.N. Tsigaridas, *Καστοριά. Κέντρο ζωγραφικής την εποχή των Παλαιολόγων (1360-1450)*, Thessaloniki 2016, fig.108.
21. S. Gabelić, Манастир Лесново, Beograd 1998, fig.13.
22. N.V. Pivovarova, Фрески Церкви Спаса на Нередице в Новгороде, Sankt Peterburg 2002, 227, fig.199.
23. G. Bertelli (ed.), *Puglia Preromanica*, Milan 2004, 172, fig.143.
24. Sicily. Madrid, Biblioteca Nacional de España, Ms. 52 (a) fol. 80r: the Enthroned Virgin with the Child; (b) fol. 80v: The Crucifixion. G. Arcidiacono, "Arts, Artworks and Manuscripts in Sicily between the 12th and 13th Centuries: Interactions and Interchanges at the Mediterranean Crossroads," *Arts* 12-3 (2023), 104, https://www.mdpi.com/2076-0752/12/3/104
25. Bertelli (n.23), 213-14, figs.188, 189.
26. P.L. Vocotopoulos, *Byzantine Icons*, Athens 1995, fig.65.
27. Lazarev (n.9), fig.81.
28. Lazarev (n.9), fig.183.
29. Donati, Gentili (n.14.), xx.
30. A. Megrelishvili (ed.), *Relics of Georgia*, Tbilisi 2003, 67.
31. M. Sklavou Mavroeidi, *Γλυπτά του Βυζαντίνου Μουσείου Αθηνών. Κατάλογος*, Athens 1999, no.216.
32. M. Andaloro, S. Romano, *Arte e iconografia a Roma*, Milan 2002, fig.23.
33. A. Cutler, *The Hand of the Master*, Princeton 1994, fig.202.
34. Cutler (n.33), fig.203; A. Goldschmidt, K. Weitzmann, *Die byzantinischen Elfenbeinskulpturen des X. bis XIII. Jahrhunderts*, 2 vols, Berlin 1930-34, 132.
35. Cutler (n.33), fig.204.
36. Cutler (n.33), fig.205.
37. R. Cormack, *Icons*, London 2007, fig.49.
38. Vassilaki (n.3), figs.198, 199.
39. Leo's Bible, Vat.Reg.gr.1, f.2v.
40. Wessel (n.5), no.31.
41. Wessel (n.5), no.22.
42. Fieschi Morgan Staurotheke. Evans (n.4), no.34; Wessel (n.5), no.5.
43. G. Galavaris, *Ιερά Μονή Ιβήρων. Εικονογραφημένα χειρόγραφα*, Agion Oros 2000, fig.20.
44. Wessel (n.5), no.51.
45. M. Zibawi, *Image chrétiennes du Levant*, Paris 2009, 45-46, figs. on 46.
46. Pivovarova (n.22), 76, fig.57.
47. https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Costantinopoli,_avorio_stroganoff_(placca_con_la_madre_di_dio_in_trono_col_bambino),_avorio,_950-1025.jpg
48. Monastery Megiste Laura, eiletarion no.2, Liturgy of St. Basil, S. Pelekanides et al., *Οι θησαυροί του Αγίου Όρους*, vol.3, Athens 1979, fig.166.